

説教題：イエスの十字架 - 栄えある勝利

OICの皆さん、お早うございます。

義認とは、永遠の赦しを買うためにイエスが十字架上で死なれたことに基づいて、私たちはもはや罪がなく、義とされるという神の宣言です。私はこれまで、ローマ書の中で義認の意味や、使徒パウロの複雑だが重要な教えを解き明かしてきました。今日は、イエスの十字架の死についての重要な真理を明らかにしたいです。イエスの死は、イエスと私たちの輝かしい勝利なのです。

聖書の最初の書、創世記から始めましょう。神は最初の人間アダムを創造します。

(創世記 2章 7-9節)：「⁷その後、神である主は、土地のちりで人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。そこで、人は、生きものとなった。⁸神である主は、東の方エデンに園を設け、そこに主の形造った人を置かれた。⁹神である主は、その土地から、見るからに好ましく食べるのに良いすべての木を生えさせた。園の中央には、いのちの木、それから善悪の知識の木とを生えさせた。」

(創世記 2章 16-18節)：「¹⁶神である主は、人に命じて仰せられた。「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。¹⁷しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べるその時、あなたは必ず死ぬ。」¹⁸その後、神である主は仰せられた。「人が、ひとりであるのは良くない。わたしは彼のために、彼にふさわしい助け手を造ろう。」

それで、神は最初の女性エバを創造されました。(創世記 2章 21-22節)：「²¹そこで神である主が、深い眠りをその人に下されたので彼は眠った。それで、彼のあばら骨の一つを取り、そのところの肉をふさがれた。²²こうして神である主は、人から取ったあばら骨を、ひとりの女に造り上げ、その女を人のところに連れて来られた。」

サタン(蛇)による誘惑は、「神が言われたこと！」つまり神の言葉と正反対のことを話したので、アダムとエバは神の代わりにサタンを信じるようになりました。アダムとエバは実を食べ、罪を犯しました。

(創世記 3章 4節)：「⁴そこで、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。」

(創世記 3章 6-7節)：「⁶そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた。⁷このようにして、ふたりの目は開かれ、それで彼らは自分たちが裸であることを知った。そこで、彼らは、いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちの腰のおおいを作った。」

アダムとエバの罪に対する呪いを説明する前に、神は蛇に対する呪いを宣告します。

(創世記 3章 13-15節)：「¹³そこで、神である主は女に仰せられた。「あなたは、いったいなんということをしたのか。」女は答えた。「蛇が私を惑わしたのです。それで私は食べた

のです。」¹⁴ 神である主は蛇に仰せられた。「おまえが、こんな事をしたので、おまえは、あらゆる家畜、あらゆる野の獣よりものろわれる。おまえは、一生、腹ばいで歩き、ちりを食べなければならない。¹⁵ わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み砕き、おまえは、彼のかかとかみつく。」」
聖霊によってイエスの母となった処女マリアのことです。さて、エデンの園の後、人類は、この女の末、神の御子イエスがサタンの頭を打ち砕くために遣わされる神の完璧なタイミングを何千年も待たなければなりません。

聖書は、蛇がサタンに憑依されていたことを明らかにしており、サタンは次のように呼ばれています。

(黙示録 20 章 1-3 節)：「¹ また私は、御使いが底知れぬ所のかぎと大きな鎖とを手を持って、天から下って来るのを見た² 彼は、**悪魔でありサタンである竜、あの古い蛇**を捕え、これを千年の間縛って、³ 底知れぬ所に投げ込んで、そこを閉じ、その上に封印して、千年の終わるまでは、それが諸国の民を惑わすことのないようにした。サタンは、そのあとでしばらくの間、解き放されなければならない。」

科学的な主張とは関係なく、私たちの信仰は聖書にあります。しかし、進化論を主張する現代の科学者たちは、ヘビにはかつて足があったと断言しています。蛇は永遠に足を失ったのです。しかし、サタンはいつか、人類に対する最大の力、死の力と支配をさらに失うことになります。

人類の救世主であるイエスについての聖書の預言をたくさん紹介することもできます。しかし、私が強調したいのは、宿敵イエス・キリストの到来と聖職に対する古い蛇、サタンの戦いのことです。

サタンはしばしば罪深い心の糸を引き、特に彼のお気に入りの子供たちが神の計画と戦うように仕向けます。イエスの誕生の直後、邪悪なヘロデ王は赤ん坊イエスを殺害しようとしてしました。これは単なる権力欲やイスラエルの民を支配したいという人間の欲望ではありませんでした。悪魔がこれを画策したのです。しかし、神の計画を阻止することはできません。この場合、神の使いはヨセフにベツレヘムから逃げるようにと使いを出しました。

(マタイ 2 章 13-16 節)：「¹³ 彼ら（博士たち）が帰って行ったとき、見よ、主の使いが夢でヨセフに現われて言った。「立って、幼子とその母を連れ、エジプトへ逃げなさい。そして、私が知らせるまで、そこにいなさい。ヘロデがこの幼子を捜し出して殺そうとしています。」¹⁴ そこで、ヨセフは立って、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトに立ちのき、¹⁵ ヘロデが死ぬまでそこにいた。これは、主が預言者を通して、「わたしはエジプトから、わたしの子を呼び出した。」と言われた事が成就するためであった。¹⁶ その後、ヘロデは、博士たちにだまされたことがわかると、非常におこって、人をやって、ベツレヘムとその近辺の二歳以下の男の子をひとり残らず殺させた。その年令は博士たちから突き止めておいた時間から割り出したのである。」

聖書は、イエスの十字架刑が神によって完璧に計画され、実行されたことをはっきりと明らかにしています。事実、神がダビデの詩篇の一部を、イエスの宿敵である悪魔に対してどのように成就されるかがわかります。

(詩篇 141 篇 8-10 節)：「⁸私の主、神よ。まことに、私の目はあなたに向いています。私はあなたに身を避けます。私を放り出さないでください。⁹どうか、彼らが私に仕掛けたわなから、不法を行なう者の落とし穴から、私を守ってください。¹⁰私が通り過ぎるそのときに、悪者はおのれ自身の網に落ち込みますように。」

ブルース牧師、神がイエスを守り、悪魔が自分の網や罠にかかったとどうして言えるのですか？ あの悪名高い最後の晩餐に至るまで、そしてその晩餐を含めて、イエスが最後の日に語ったことを見てみましょう。

エルサレムへの凱旋の日、イエスは次のように語りました。

(John 12 章 29-33 節)：「²⁹ そばに立っていてそれを聞いた群衆は、雷が鳴ったのだと言った。ほかの人々は、「御使いがあの方に話したのだ。」と言った。³⁰ イエスは答えて言われた。「この声が聞こえたのは、わたしのためにではなくて、あなたがたのためです。³¹ 今がこの世のさばきです。今、この世を支配する者は追い出されるのです。³² わたしが地上から上げられるなら、わたしはすべての人を自分のところに引き寄せます³³ イエスは自分がどのような死に方で死ぬかを示して、このことを言われたのである。」

イエスが使徒たちと過越の祭りを共にされたとき、有名なキリストの最後の晩餐 です。

(ヨハネ 13 章 21-32 節)：「²¹ イエスは、これらのことを話されたとき、霊の激動を感じ、あかしして言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたのうちのひとりが、わたしを裏切ります。」²² 弟子たちは、だれのことを言われたのか、わからずに当惑して、互いに顔を見合わせていた。²³ 弟子のひとりで、イエスが愛しておられた者が、イエスの右側で席に着いていた。²⁴ そこで、シモン・ペテロが彼に合図をして言った。「だれのことを言っておられるのか、知らせなさい。」²⁵ その弟子 (ヨハネ) は、イエスの右側で席についたまま、イエスに言った。「主よ。それはだれですか。」²⁶ イエスは答えられた。

「それはわたしがパン切れを浸して与える者です。」それからイエスは、パン切れを浸し、取って、イスカリオテ・シモンの子ユダにお与えになった。²⁷ 彼がパン切れを受けると、そのとき、サタンが彼にはいった。そこで、イエスは彼に言われた。「あなたがしようとしていることを、今すぐしなさい。」³⁰ ユダは、パン切れを受けるとすぐ、外に出て行った。すでに夜であった。³¹ ユダが出て行ったとき、イエスは言われた。「今こそ人の子は栄光を受けました。また、神は人の子によって栄光をお受けになりました。³² 神が、人の子によって栄光をお受けになったのであれば、神も、ご自身によって人の子に栄光をお与えになります。しかも、ただちにお与えになります。」

サタンは、失われたイスカリオテのユダを通して、イエスを捉える網をしかけました。(詩篇 141 篇 10 節)「¹⁰ 私が通り過ぎるそのときに、悪者はおのれ自身の網に落ち込みますように。」

しかし、起こっていたのは神の計画。悪魔は、神の子の死によって地球が自分の遊び場になると考えイエスは、ユダと、ユダに金を払ってイエスを裏切らせた大祭司たちを通して、悪魔に罠が仕掛けられたことを知っていました。間違っても、イエスか神か、どちらかが蒔けたと考えてはいけません。イエスが悪魔の網を無事にくぐり抜けたのは、イエスが十字架上で死に至るまで天の父に従順であり、その結果、父に栄光を帰することが唯一の安全であったからです。注目すべきは、イエスは来るべきご自分の死について、「栄光を受ける」とい

う言葉で語られたことです：（ヨハネ 13 章 31 節）：「今こそ、人の子は栄光を受けました。」

イエスは実際、「今、悪魔は自分の網にかかった」と言われたのだ。イエスの十字架刑は、地上におけるイエスの最大の勝利でした。

イエスは、また（ヨハネ 13 章 31-32 節）そして、「³¹ 神は人の子によって栄光をお受けになりました。」；³² 神が、人の子によって栄光をお受けになったのであれば、神も、ご自身によって人の子に栄光をお与えになります。しかも、ただちにお与えになります。」

サタンは神の子を殺そうと仕掛けた網にかかりました。悪魔は遅まきながら、これが天国から追い出されて以来の最大の敗北だと知ることになります。

（ルカ 10 章 18 節）でイエスが弟子たちにこう言われたのはそのためです。：「イエスは言われた。「わたしが見ていると、サタンが、いなずまのように天から落ちました。」

イエスが、最初に栄光をお受けになったのは、復活の朝に栄光と復活の肉体を弟子たちに現わされた時ではありません。木曜日の夕方、最後の晩餐の席で、彼は父なる神に栄光を受けると言い、すぐに栄光を受けると言った。それは翌日の十字架刑のことです。

イエスは、御父と御自身の栄光のもとに戻る唯一の道があることを知っておられた。（ピリピ人への手紙 2 章 6-8 節）にあるように、イエスはご自分の栄光を捨て、空にして地上に降られた。：「⁶ キリストは、神の御姿であられる方なのに、神のあり方を捨てることのできないとは考えないで、⁷ ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられたのです。⁸ キリストは人としての性質をもって現われ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも（御父に）従われたのです。」

今私たちはイエスが十字架上で受けた苦しみのすべてを測ることも感謝することもできません。十字架刑は、市民を恐怖に陥れるためにローマ帝国が考案したものです。耐え難い痛みを伴う窒息死だった。（イザヤ 53 章 10-12 節）には、私たち罪人のためのイエスの痛みと身代わりの罰が示されている。：「¹⁰ しかし、（父なる神は）彼を砕いて、痛めることは主のみこころであった。もし彼が、自分のいのちを罪過のためのいけにえとするなら、彼は末長く、子孫を見ることができ、主（父なる神）のみこころは彼によって成し遂げられる。¹¹ 彼は、自分のいのちの激しい苦しみのあとを見て、満足する。わたしの正しいしもべは、その知識によって多くの人を義とし、彼らの咎を彼がになう。¹² それゆえ、わたしは、多くの人々を彼に分け与え、彼は強者たちを分捕り物としてわかちとる。彼が自分のいのちを死に明け渡し、そむいた人たちとともに数えられたからである。彼は多くの人の罪を負い、そむいた人たちのためにとりなしをする。」

（ピリピ 2 章 9-11 節）にあるように、神の約束は、「わたしは、彼に大いなる者とともに分け前を与える」のです：「⁹ それゆえ、神は、キリストを高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。¹⁰ それは（ピリピ 2：1-8にある）、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが、ひざをかがめ、¹¹ すべての口が、「イエス・キリストは主である。」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。」

イエスは十字架の上で、サタンの呪いとイエスの苦しみに関する神の預言と約束を成就された（創世記 3 章 15 節）...彼女の末；わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫

と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み砕き、おまえは、彼のかかとかみつく。」

肉体的な痛みや苦しみだけを考えれば、イエスは十字架の敗者だと思ってしまうかもしれません。そうではありません。サタンの永遠の苦しみは、すでに（黙示録 20 章 10 節）に整えられています。：「そして、彼らを惑わした悪魔は火と硫黄との池に投げ込まれた。そこは獣も、にせ預言者もいる所で、彼らは永遠に昼も夜も苦しみを受ける。」

イエスのかかとの打撲傷は十字架上の死です。それがどうして打撲傷としか言いようがないのでしょうか。なぜなら、イエスは御父のための使命を果たされたからであり、それがイエスの最大の喜びであったからです。イエスの次の大きな喜びは、私やあなたのような罪人が罪の罰から解放されるのを見ることでした。

また、イエスの喜びには、「エデンの園」（創世記 3 章 15 節）におけるサタンに対する神の呪いを完成させるために、十字架上の苦しみを耐え忍ぶことも含まれていたと言えます。：「わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み砕き、おまえは、彼のかかとかみつく。」

サタンの頭部への傷は今日まで続いています。十字架における彼の最大の損失は、（ヘブル 2 章 14 節/AMP）において私たちに明らかにされています。：「それゆえ、[これらの]子らは血肉[人類の肉体的性質]を共有しているので、御自身も同じように[肉体的性質を共有しているが、罪はない]、死を[経験する]ことによって、死の力を持つ者、すなわち悪魔を無力にするためであった。」

イエスが十字架にかけられる前、サタンは死の力を持っていた。

（ヨブ 2 章 4-6 節）：「⁴サタンは主に答えて言った。「皮の代わりには皮をもってします。人は自分のいのちの代わりには、すべての持ち物を与えるものです。⁵しかし、今あなたの手を伸べ、彼の骨と肉とを打ってください。彼はきっと、あなたをのろうに違いありません。」⁶主はサタンに仰せられた。「では、彼をおまえの手に任せる。ただ彼のいのちには触れるな。」

神はその究極の権威を用いて、サタンがヨブを殺すという通常の権威を行使することを許しませんでした。

それゆえ、サタンはもはや人類に対するカードゲームで死のカードを使うことができません。彼の頭は傷つきました。クリスチャンよ、考えてください。私たちには永遠の命という賜物があります。悪魔はもう誰も、特に私たちクリスチャンを肉体的にも霊的にも殺すことはできません。なぜ私たちの中には、このような弱体化した蛇を恐れる者がいるのだろうか？

ペテロが（1 ペテロ 5 章 8-9）で警告しているように、彼はまだ墮天使としての力を持っています。：「身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。⁹堅く信仰に立って、この悪魔に立ち向かいなさい。ご承知のように、世にあるあなたがたの兄弟である人々は同じ苦しみを通って来たのです。」

アンプリファイドの「無力、効果なし、無力」という形容詞は、イエスの十字架の結果です。（ヨハネ 12. 31-33）で、イエスとイエスを取り囲む群衆に雷を落とした後、イエスが言われ

た言葉を思い出してほしい。：「³¹今がこの世のさばきです。今、この世を支配する者は追い出されるのです。³²わたしが地上から上げられるなら、わたしはすべての人を自分のところに引き寄せます。」³³イエスは自分がどのような死に方で死ぬかを示して、このことを言われたのである。」

「追い出す」とは、イエスが悪魔の使いである悪霊を追い出したときのように、人を支配する力を失うことを意味します。ペテロは、信仰に堅く、この吼える獅子に抵抗することを明らかにしました。ペテロは原語のギリシア語 (MOUNCE) “冷静な精神”、*nepho*/ 酔わない、警戒を意味するギリシア語、そして “alert”、目を覚ます、警戒して見守るという意味のギリシア語 “*gregaoreo*” で、私たちの態度を指示しています。この2つの言葉は、恐れを意味するのではなく、信仰によって、キリストによる勝利、キリストにある勝利への確信を指しています。悪魔の策略とうなり声を悟るとき、私たちは信仰に堅く抵抗し、悪魔の唸り声は子猫の鳴き声に変わります！ その信仰には、今や天地の主である救い主に、私たちに迷惑をかける悪魔に対して迷惑をかけるようお願いすることも含まれます。悪魔はクリスチャンを苦しめることができます。ペテロが言ったように、**苦しみは世にいるあなたがたの兄弟たちによってもたらされているのです**。ペテロは *being accomplished* (成し遂げられる) という言葉を使い、苦しみが敗北を意味しないことを暗示しています。しもべは主人であるイエスより偉いのでしょうか？

パウロが、(2 コリント 4 章 17 節) で苦しみについて行っているように：「今の時の軽い患難は、私たちのうちに働いて、測り知れない、**重い永遠の栄光**をもたらすからです。」主がそうであったように、私たちも蛇との戦いの中で、主と御父に栄光をもたらすことができます。しかし、パウロはまた、クリスチャンにはそのトラブルメーカーに問題を起こす権威があることも知っていました。**私たちがどんなに弱くても、イエスがサタンを攻撃してください**のです。しかし、ブルース牧師、主は天の父への主の祈り(ヨハネ 17 章 15 節)でこう言われました。：「**彼らをこの世から取り去ってくださるよう**にというのではなく、**悪い者から守ってくださるよう**にお願いします。」

そう、父は私たちを悪から守ってくださいます。しかし、それは決して私たちだけのことではないのでしょうか？ 大阪では毎日 240 人もの人々が死に、地獄で永遠の眠りについていきます。私たちは彼らのために悪魔と戦っています。悪魔とその使者たちに対して、神が防御用の小楯と騎士が使う盾をとってくださるよう**に**私たちが祈らなければ、彼らはこの驚くほど高い確率で滅び続けるでしょう。パウロはクリスチャンたちにその課題を明確にしました。パウロは主と主の祈りを知っていました。しかし、世に福音を伝えるために効果的であるためには、戦わなければならないことを知っていました！

(エペソ 6 章 12 節)：「**私たちの格闘は血肉に対するものではなく主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです**。」**悪魔との戦いにおける 100%の成功保証は、御子イエスを通して全能の神に祈ること**です。

ではもう一度、イエスの十字架上での最後の数分間を見てみましょう。まず、サタンがイエスを十字架から降ろそうと最後の努力をしたことに注目しよう。彼は再び彼の悪霊の子供たちを使いました。

(マタイ 27 章 40 節) : 「言った。『神殿を打ちこわして三日で建てる人よ。もし、神の子なら、自分を救ってみろ。十字架から降りて来い。』」

しかし、神が勝ち、私たちが勝ち、サタンが負けます。 イエスは十字架上で背筋を伸ばし、父に忠実でした。

さて、ヨハネの福音書の次の聖書の箇所、イエスは悪魔とのリングでボクシングの試合に負けた人のように聞こえるでしょうか？ いや、耐え難い苦しみの中で堂々と立っている無敵のチャンピオンのようです。彼の言葉は、私が快適なアームチェアに座ってこの説教を書いているように、うまく構成されています！

(ヨハネ 19 章 23-30 節) : ²³ さて、兵士たちは、イエスを十字架につけると、イエスの着物を取り、ひとりの兵士に一つずつあたるよう四分した。また下着をも取ったが、それは上から全部一つに織った、縫い目なしのものであった。²⁴ そこで彼らは互いに言った。「それは裂かないで、だれの物になるか、くじを引こう。」それは、「彼らはわたしの着物を分け合い、わたしの下着のためにくじを引いた。」という聖書が成就するためであった(詩篇 22 篇 18 節より)。²⁵ 兵士たちはこのようなことをしたが、イエスの十字架のそばには、イエスの母と母の姉妹と、クロパの妻のマリヤとマグダラのマリヤが立っていた。²⁶ イエスは、母と、そばに立っている愛する弟子(ヨハネ)とを見て、母に「女の方。そこに、あなたの息子がいます。」と言われた²⁷ それからその弟子に「そこに、あなたの母がいます。」と言われた。その時から、この弟子は彼女を自分の家に引き取った。²⁸ この後、イエスは、すべてのことが完了したのを知って、聖書が成就するために、「わたしは渇く。」と言われた。

(詩篇 69 篇 21 節より)²⁹ そこには酸いぶどう酒のいっぱいはいった入れ物が置いてあった。そこで彼らは、酸いぶどう酒を含んだ海綿をヒソプの枝につけて、それをイエスの口もとに差し出した。³⁰ イエスは、酸いぶどう酒を受けられると、「完了した。」と言われた。そして、頭を垂れて、霊をお渡しになった。」

OIC の親愛なる聖徒たちよ、これは敗北したファイターではなく、私たちの魂のチャンピオンであり恋人の言葉なのです。イエスが語った言葉の中で、私の心に飛び込んでくるものが 2 つあります。1) 酸いぶどう酒を求める前に(錯乱した人間にそんなことはできない)、聖霊はヨハネにこう書かせた: 「完了した。」

私は、すべてのことを信じる一父の意志が成し遂げられたことを信じます; 私たち個人を思い、私たちが赦されていることを、母マリアの世話もまた、マリアにとって重要でした; サタンは永遠に傷つけられ、二度と死の力を持つことはないのです。

それゆえ、イエスの“即座の”栄光化は完了し、あとは御霊を父にお返しするだけでした。イエスは次に、ヨハネが靈感を受けて書いたことを確認する言葉を話されました。

2) 「完成した！」上記のリストを確認しますが、罪人に対する主の素晴らしい愛を個人的なタッチで表現しています。イエスが原語のギリシャ語で語った言葉は「*tello*」であり、1 世紀のビジネス契約書に書かれていたように、賦課金や負債が支払われたことを意味します。

戦いに敗れた男は、自分自身とその結果をコントロールできなくなります。イエスは、そのどちらもされなかった。復活は、私たちが主の十字架上の完成された御業を信じ、確信するための勝利の啓示であった。私は、「感情的な」人だと、ある人は言います。イエスが十字架上の苦しみの中で、私たちのことを個人的に考えてくださったことを実感しながら、

私たちが「すべてにまさって」を歌うとき、イエスへの思いやりに感謝します。しかし聖書は、イエスが何よりも父に従うことを考えていたことを明らかにしています。

聖書は語っています（イザヤ 53 章 10 節）：「しかし、彼を砕いて、痛めることは主のみこころであった。もし彼が、自分のいのちを罪過のためのいけにえとするなら、彼は末長く、子孫を見ることができ、主のみこころは彼によって成し遂げられる。」

そうです、イエスはバラの花びらのように砕かれたが、決して倒れることはありませんでした。栄光の十字架に足を釘付けにされながら、聖霊の力によって片足を蛇の頭の上に乗せられ、十字架の上に立っておられました。

私たちの敵はカルバリーで傷ついた敗者です。私たちは、他の人々が天国のために抵当権を支払われるように祈りによって、弱くなった敵の頭を攻撃しなければなりません。パウロがローマの諸教会に宛てた手紙（ローマ 16 章 20 節）で締めくくったように、いつの日か、私たちの敵は傷つけられるだけでなく、打ち砕かれるでしょう。：「²⁰ 平和の神は、すみやかに、あなたがたの足でサタンを踏み砕いてくださいます。…」

では、このメッセージの多くをとらえた賛美歌と一緒に歌いましょう：「丘に立てる荒削り」

祈りましょう。

REFERENCES

AMP - Amplified Bible, Copyright © 1954, 1958, 1962, 1964, 1965, 1987 by The Lockman Foundation, La Habra, CA 90631. All rights reserved.

MOUNCE - The Mounce Reverse Interlinear™ New Testament, Copyright © 2011 by William D. Mounce. Used by permission. All rights reserved worldwide. “Reverse Interlinear” is a trademark of William D. Mounce.

NASB1995 - New American Standard Bible®, Copyright © 1960, 1971, 1977, 1995, 2020 by The Lockman Foundation. All rights reserved.